

まちを知れば まちが好きになる

毎日を過ごす私たちのまち志木市。志木市の良いところは？…、志木市ってどんなまち？…そんな問いかけに、あなたならどう答えますか。

知っているようで、意外と知らない私たちの住む地元。「まちを知れば、私たちのまちがもっと好きになる」…今月の特集では、私たちのまちを知るための取組と、志木のまちの魅力や歴史を伝えるために活動するボランティアの皆さんをご紹介します。

まちを知ることの大切さ

志木市の良いところって何でしょう。ある人は交通の便であったり、またある人は住みよい環境であったり、人との絆や歴史など、100人の人に聞いたなら、それぞれ100通りの答えが返ってくるかもしれません。

たくさんの人に志木市に住みたい、住み続けたいと思ってもらうためには、住む人の一人ひとりがこのまちに愛着を持ち、誇りを持つことが大切です。そのためには、まずは私たちが暮らすまちのことを知る人を増やすことが大切なのです。

歩いてみるのがおすすめ

テレビ番組の影響で、最近ちょっととしたブームになりつつある「まちあるき」。

時には何も考えずにぶらぶらと、またある時にはテーマを決めて、地図やガイドブックを片手に、川辺や路地裏、商店街を巡り、まちなかのお店や懐かしい看板、珍しい風景などに目を留め、あなただけのお気に入りのスポットを探してみたいかがでしょうか。また、まちを歩くなか、出会う人や地域の人と交流することで、また行きたくなる場所がきっと見つかるはずです。

そうしたお気に入りのスポットが、一つ一つ増えていくことが、「住んでいて良かった」：「住み続けたい」という思いにつながってきます。

面積9・05平方キロメートルの志木のまちは、歩くのにびったりなコンパクトなまち。のんびりと歩いてみませんか。



マップを持って

歩いてみよう志木のまち

しきし歴史マップ（志木編・宗岡編）

小学校4年生が、地域を学ぶために作られた「しきし歴史マップ」。市内の文化財や志木市の歴史をたどることができる場所を紹介しています。お子さんと一緒に志木の歴史をたどって歩いてみてはいかがでしょうか。（生涯学習課、郷土資料館で配布しています）

〈問合せ〉 生涯学習課 内線31332



志木市観光ガイドブック

志木市のPRと観光振興を目的として、十文字学園女子大学の協力を得て発行された『志木市観光ガイドブック』。市内の名所、旧跡やご当地グルメなどを紹介しています。サイクリングとカップパ探訪ができるマップを収録。ガイドブックを見ながら市内にあるカップパ像23体を巡ってみませんか。

4式ロボといろは水輝のオリジナルコミック「みらい式水輝 志木市のひみつ編」付き

（市内主要公共施設や駅、埼玉県物産観光協会施設などで配布しています）

〈問合せ〉 産業観光課 内線2162



子どもたちもまちを知る

市内の小中学校では、副読本を導入し、私たちの住む志木市について知り、子どもたちに郷土に愛着と誇りを持つてもらうため、小学校の3年生と4年生の社会科の授業と中学校の歴史と公民の授業で志木市の歴史や地理、産業や風土、市政などについて学んでいます。あわせて、小学校4年生の総合的な学習の時間では、実際に現場を見て歩くフィールドワークなども行っています。



▲小・中学校で活用中の副読本



▲しき子ども郷土かるた大会

また、市では、平成5年に、市内の歴史や自然、文化、産業をテーマに市内小中学校の児童生徒から読み札と絵札を募集し「しき郷土かるた」を作成しました。このしき郷土かるたを広く活用するとともに、子どもたちの郷土愛を高めるため、志木市子ども会育成連絡協議会に委託し、毎年2月下旬に「しき子ども郷土かるた大会」を開催しています。毎年、子ども会をはじめとしてたくさんの方々が参加し、遊びながらまちを知る取組が続けられています。



「しきのまちを知る」活動

「しきのまち案内人の会」

志木市の歴史や自然、文化・産業など志木市の魅力を伝える案内人として活動する「志木のまち案内人の会」の皆さん。単に知識として、知るだけでなく、見て触れて感じるフィールドワークを大切に、「現地現物」を合い言葉に市内各所を案内しています。

メンバーの皆さんに志木のまちの魅力を知ると、「志木のまちには新河岸川や柳瀬川、荒川などの豊かな水と豊かな自然があり、そこに先人達の築いた素晴らしい歴史や文化があります。私たちも、学んでいく中でその素晴らしさに気づきました。志木のまちがより好きになり、住

んでいて良かったと思うようになりました。そうした素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらいたい、私たちの感じた感動をたくさんの人に味わってもらいたくて、活動を続けています」と話してくれました。

この日は、宗岡第四小学校の4年生を案内しました。子どもたちは、新河岸川の舟運の歴史と野火止用水、そしていろは樋について説明を聞き、目の前の明治時代のいろは樋の樋管に触れて、昔の志木の人たちの知恵やまちに対する思いを共有しました。

多くの人にまちを案内する中で、逆に参加者から昔の志木のまちの様子を教えてもらうこともあるそうで、その都度新しい発見があるのがフィールドワークの醍醐味とメンバーの深瀬克さん。地域の人に案内役をお願いすることもあり、そうした交流がまちを知る新たな広がりにもつながっていると言います。当たり前だった風景が、別のストーリーを知ること全く違う景色に見える…志木のまち案内人の会は、そんな体験を支えています。



▲メンバーの深瀬さんが子どもたちに明治時代の樋管を案内しました



▲現在の国道463号線付近にあった鶴巻の池と佃堤の様子を、地元の細田さんに聞きました



▲12月13日(日)に行われた「古地図で歩く佃堤と旧鎌倉街道」では、かつての鎌倉街道と佃堤の跡を訪ねて歩きました

志木のまち案内人の会の皆さんにご案内のリクエスト、または活動に興味がある人は、志木のまち案内人の会ホームページ <http://www.shikiguide.org/> をご覧ください。

▼新河岸川と柳瀬川の合流地点に位置します



村山快哉堂管理運営委員会

旧村山快哉堂は、明治10年に薬局として建築された木造2階建て土蔵造りの店蔵で、かつては本町3丁目に位置していましたが、平成7年に解体された後、平成13年にいろは親水公園「なかすの林（現村山快哉堂ひろば）」に移築復元されました。店蔵が座売り形式の商形態を残す点、一階中央部分の吹き抜け、鉢巻の2段構成、ムシコ窓と枠回りなど川越市の店蔵とは異なる意匠構成が見られ、志木市の貴重な文化財です。

村山快哉堂管理運営委員会は、平成9年度から13年度に行われた生涯学習ボランティア養成講座の修了生が中心となって平成13年に団体を立ち上げ、現在は、村山快哉堂の清掃や周辺の草刈、低木の剪定などの管理運営を行うほか、訪れた人たちに村山快哉堂の案内をしています。

ほかにも、昔の遊びの実演や蔵を活用したコンサートの開催、7月には七夕飾りづくりの実演、2月には雛の吊し飾りの展示、3月には、村山快哉堂まつりの開催など文化財を通じた志木市の歴史や魅力を伝える取組を続けています。



▲昨年11月26日に行われた津軽三味線のコンサート

旧村山快哉堂

【開館時間】 午前10時～午後4時

【開館日】 金・土・日・月曜日（12月26日（土）～1月4日（月）は休館）



▲かつては茅葺きの建物だった郷土資料館

宗岡小学校の敷地内にある志木市立郷土資料館は、市民から寄贈された江戸末期に建てられた民家の離れを移築のうえ改築し、郷土の考古や歴史、民俗資料などを収集・保存し、展示公開しています。

郷土資料館の会の皆さんは、平成15年から、郷土資料館に収蔵する郷土資料の展示・整理・保管にあたっています。

郷土資料館の会では、館内の整理保管だけでなく、年に3回市民文化財講座を開催し、広く市民の皆さんに志木市の文化財について周知する活動を行っているほか、季節

郷土資料館の会

▼ろう石をつかった「まが玉づくり教室」は人気があります（毎週土曜日開催）



や時の話題に応じた特別展を企画・開催するなど、郷土の歴史や文化財を多くの人に知ってもらうための取組を続けています。

会長の星野昭次郎さんにお話を伺うと、「郷土資料館には市民の皆さんから寄贈された資料がたくさんあります。それらの資源を大切にしたい、皆さんの皆さんに来てもらいたい、志木市の歴史に関心を持ってもらえるよう心掛けています。毎週土曜日には、ろう石をつかった『まが玉づくり教室』も開催していますので、気軽に来てください」と話してくれました。

郷土資料館

【開館時間】 午前9時30分～午後4時30分

【休館日】 月曜日及び年末年始（12月27日（日）～1月4日（月）は休館）